

# 国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてきています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時

会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど

会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）

主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」

後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）

問合せ先：

横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分科会

Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）

URL [jicasvob.com](http://jicasvob.com) E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国（講師名）	「タイトル」	講演概要
第95回 7月17日 (水) シリア (鈴木秀秋)		<p>「私の経験したシリアでの海外ボランティア活動」</p> <p>シリアは砂漠の多い後進国でもあり、資源も乏しく産業も大きく遅れている。私はダマスカス工業会議所に所属し、周辺の各工場へ工場管理の手法（特に日本式の管理法）を指導、実践させることであった。2年間週3,4日各工場を巡回し、生産計画の立て方から品質管理まで改善の実施方法などを各工場の実態を加味しながら指導した。</p>
第96回 8月21日 (水) キルギス (松田信治)		<p>「日本とキルギスの架け橋に」</p> <p>ソビエト崩壊後独立して間もないキルギスでの私の配属先は視覚聴覚障害者協会（NGO）である。自分の趣味の「走る」ことを強みに視覚障害者との「伴走練習会」を開催したのを皮切りに任期中に30事例のボランティア活動を行った。「相手の喜びは自分の喜び、とことんやることによって信頼が生まれる」が活動の原動力になった。</p>
第97回 9月18日 (水) ケニア (大久保克)		<p>「アフリカの貧困からの脱出は可能か？私の活動は役立ったか？」</p> <p>今やインターネット・携帯電話はアフリカ諸国でも広く使われ、急速な技術開発が世界中で進んでいます。アフリカの大学の教師・学生に、本技術は受入れられるか？ 彼等は勉強するか？ 私の活動は役立ったか？ 人々の貧困からの脱出は可能か？ 大学でのボランティア活動を通して、黒人社会との文化・価値感の違いを考える。</p>
第98回 10月16日 (水) チュニジア (石塚晴雄)		<p>「チュニジア革命と電子技術移転」</p> <p>チュニジア第二の都市、SFAXの職業訓練センターにて、電子科の先生にマイクロコンピュータによる制御技術を指導した。実習用教材の作成が主な目的ではあったが、教材作りを通して、コンピュータ制御の面白さを理解してもらった。またSVからみたチュニジア革命についても状況説明をする予定です。</p>
第99回 11月20日 (水) タイ (木村益徳)		<p>「タイ北部盲学校での活動について」</p> <p>2年にわたり、チェンマイ県のタイ北部盲学校で、視覚の他にも知的発達遅滞や肢体不自由など、重複した障害をもつお子さんの教育活動に関わった。学校内だけではなく、様々な都合で登校できない子どもたちのための訪問教育プログラムなどにも携わるなど、CPと協力して有意義な活動を行うことができた。</p>